

2019年4月7日(日)朝10:10～ 主の復活前第2、役員会等  
4月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：自分の宝は天にたくわえなさい

聖書:マタイ 6章19～34節

＜口語訳＞

新約聖書8～9頁

マタイ 6章19～34節

＜新共同訳＞

新約聖書10～11頁

マタイ 6章19～34節

＜新改訳第3版＞

新約聖書10～11頁

マタイ 6章19～34節＜塚本訳＞

新約聖書 ～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き  
によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓**あるいは**説教**と表現される箇所です。

◇本日は、**マタイ6章19～34節**も、**マタイ5章**の続きで、**神の御子イエス・キリスト様**を祝福のことば全体の中で理解したいとの思いで、「**主の祈り**」(9～13)＜「**断食**」(16～18)は後日扱います＞見たが、「**天に自分の宝をつみなさい**」で、「**隠れた所での父なる神の目**」(6:20)に「**焦点**」合わせています。

⇒「**神の幸い・祝福**」、「**迫害の中の神信仰**」に続く「**天の父の心の目**」に「**神の御子イエス・キリスト様**」は、注目しておられるのです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「**祈り**」(5～6)、「**隠れた所での祈り・主の祈り・弟子の祈り**」同様、「**天の父の心の目**」が大事なことばになっています。

⇒「**宝のあるところに心もある**」(21)からです。

本論；

◇本日、マタイ書6章19～34節から主の使信に思い・心をとめます。

◆マタイ6章19～34節；使徒マタイは、神の御子イエス・キリスト様の「隠れた所での祈り・主の祈り・弟子の祈りを隠れた所におられる父なる神にする」ように「天の父の心の目」に焦点を合わせよのことばが語られます。

◇5～15節；塚本訳◆宝を地上に積むな

<19～24>

「19（このように、何事も天の父上相手でなければならない。たとえば）あなたたちは衣魚や虫が食い、また泥坊が忍び込んで盗むこの地上に宝を積まず、

20 衣魚も虫も食わない、また泥坊が忍び込むことも盗むこともない天に、宝を積んでおきなさい。（そうでないと、心が天に向かないであろう。）

21 宝のある所に、あなたの心もあるのだから。

22 目は体の明りである。だからあなたの目が澄んでおれば、体全体が明るいが、

23 目が悪いと、体全体が暗い。だから（天に宝

を積まないため、)もしあなたの内の光(である目、すなわち心)が暗かったら、その暗さはどんなであろう。

24 (わたし達の心は天か地かに引かれる。)だれも(同時に)二人の主人に仕えることは出来ない。こちらを憎んであちらを愛するか、こちらに親しんであちらを疎んじるか、どちらかである。あなた達は神と富とに仕えることは出来ない。

◆生活の心配をするな<25~34>

25 だから、わたしは言う、何を食べようかと命のことを心配したり、また何を着ようかと体のことを心配したりするな。命は食べ物以上、体は着物以上(の賜物)ではないか。(命と体とを下さった天の父上が、それ以下のものを下さないわけではない。)

26 空の鳥を見てごらん。まかず、刈らず、倉にしまいこむこともしないのに、天の父上はそれを養ってくださるのである。あなた達は鳥よりも、はるかに大切ではないのだろうか。

27 (だいいち、)あなた達のうちのだれかが、心配して寿命を一寸でも延ばすことが出来るのか。

- 28 また、なぜ着物のことを心配するのか、野の花の育つのを、よく見てごらん、苦勞をせず、紡ぐこともしない。
- 29 しかし、わたしは言う、栄華を極めたソロモン(王)でさえも、この花の一つほどに着飾ってはいなかった。
- 30 きょうは花咲き、あすは炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこんなに装ってくださるからには、ましてあなた達はなおさらのことではないか。信仰の小さい人たちよ！
- 31 だから、『何を食べよう』とか、『何を飲もう』とか、『何を着よう』とか言って、心配するな。
- 32 それは皆異教人のほしがるもの。あなた達の天の父上は、それが皆あなた達に必要なことをよく御承知である。
- 33 あなた達は何よりも、御国と、神に義とされることを求めよ。そうすれば(食べ物や着物など)こんなものは皆、(求めずとも)つけたして与えられるであろう。
- 34 だから、あしたのことを心配するな。あしたはあしたが自分で心配する。一日の苦勞はその日の分で沢山である。」と、使徒マタイは語る。

◇19～24節；「(このように、何事も天の父上  
相手でなければならない。たとえば)あなた  
たちは衣魚や虫が食い、また泥坊が忍び込ん  
で盗むこの地上に宝を積まず、衣魚も虫も  
食わない、また泥坊が忍び込むことも盗むこ  
ともない天に、宝を積んでおきなさい。(そう  
でないと、心が天に向かないであろう。）」、「宝  
のある所に、あなたの心もある」、「目は体  
の明りである。だからあなたの目が澄んでお  
れば、体全体が明るい、目が悪いと、体全  
体が暗い。だから(天に宝を積まないため、)  
もしあなたの内の光(である目、すなわち心)  
が暗かったら、その暗さはどんなであらう」、  
「(わたし達の心は天か地かに引かれる。)  
だれも(同時に)二人の主人に仕えることは  
出来ない。こちらを憎んであちらを愛する  
か、こちらに親しんであちらを疎んじるか、  
どちらかである。あなた達は神と富とに仕  
えることは出来ない」と、「御子イエス・キ  
リスト様」は、①「宝のある所に、あなたの  
心もある」、②「目は体の明りである。だ  
からあなたの目が澄んでおれば、体全体が  
明るい、目が悪いと、体全体が暗い。だ  
から(天に宝を

積まないため、)もしあなたの内の光(である目、すなわち心)が暗かったら、その暗さはどんなであろう」と、心の目がどこに焦点を合わせているかを問うておられます。

⇒「**天の父の心の目**」は、「**宝のある所に、あなたの心もある**」(21)とあるように、心の焦点が合っていることが問われています。

⇒「**衣魚も虫も食わない、また泥坊が忍び込むことも盗むこともない天に、宝を積んでおきなさい**」と、「**天の父のところに積まれた宝**」は、「**衣魚も虫も食わない、また泥坊が忍び込むことも盗むこともない**」ので、**天の父の心**で管理され、しかも、「**宝のある所に、あなたの心もある**」と、「**天の父の心**」だけでなく、「**宝を積んだ者の心もある**」のです。

⇒「**地上の富、食べ物、衣服、安全保障等**」が、私たちの心の目を「**天の父**」に向かうのをずらすのです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「**宝のある所に、あなたの心もある**」と、「**天の父**」に焦点を合わせ「**神への祈り**」を見ていて下さるのです。

⇒**主日の礼拝・讚美**も、「**天の父への祈り**」です。

◇25～34節；「だから、わたしは言う、何を食べようかと命のことを心配したり、また何を着ようかと体のことを心配したりするな。命は食べ物以上、体は 着物以上(の賜物)ではないか。(命と体とを 下さった天の父上が、それ以下のものを下さらないわけではない。)」、「空の鳥を見てごらん。まかず、刈らず、倉にしまいこむこともしないのに、天の父上はそれを養ってくださるのである。あなた達は鳥よりも、はるかに大切ではないのだろうか、あなた達のうちのだれかが、心配して寿命を一寸でも延ばすことが出来るのか、なぜ着物のことを心配するのか、野の花の育つのを、よく見てごらん、苦勞をせず、紡ぐこともしない、きょうは花咲き、あすは炉に投げ込まれる 野の草でさえ、神はこんなに装ってくださるからには、ましてあなた達はなおさらのことではないか。信仰の小さい人たちよ！」、「だから、『何を食べよう』とか、『何を飲もう』とか、『何を着よう』とか言って、心配するな」、「あなた達の天の父上は、それが皆あなた達に必要な ことをよく御承知である、あなた達は何よりも、御国と、神に義とされることを求



めよ。そうすれば(食べ物や着物など)こんなものは皆、(求めずとも)つけたして与えられる」、「だから、あしたのことを心配するな。あしたはあしたが自分で心配する。一日の苦労はその日の分で沢山である」と、「御子イエス・キリスト様」は、「だから、あしたのことを心配するな。あしたはあしたが自分で心配する。一日の苦労はその日の分で沢山である」と、締め繰りくって下さっています。

⇒「宝のある所に、あなたの心も、天の父の心もある」のです。「だから、『何を食べよう』とか、『何を飲もう』とか、『何を着よう』とか言って、心配するな」と、「天の父」に焦点を合わせた生活が**神の義の国の生活**です。

⇒「天の父の心の目」は、常に、「天の父のみもとに宝を蓄えている人・祈りの生活者」に注がれています。

⇒OA師は、22～23節の「目は体の明りである。だからあなたの目が澄んでおれば、体全体が明るい。目が悪いと、体全体が暗い。だから(天に宝を積まないため、)もしあなたの内の光(である目、すなわち心)が暗かったら、その暗さ

はどんなであろう」に注目して、「澄んだ心の目を天の神」に向けるよう語っておられ、それこそが、「**宝をあなたの心とともに天に蓄える**」ことだと、言っておられます。

⇒「**天にある富・宝**」は、「**神の義の国の生活**」(33)であると暗黙の回答をあたえておられます。

⇒「何よりもまず、神に知っていただいて、支配していただくこと。この悲しい私を力強い王の力で支配して清めていただく。私の正しさではなく、神御自身の聖なる正しさを染み透らせて、死んでいたものを生きたものに、汚れたものを清いものにしていただくこと」、それが「**神の国と神の義**」です。

⇒**OA師**は、まとめて、次のように語っておられます。

⇒キリストはそれを可能にするためにだけ来られて、そのために死なれて、そのために復活してくださる。そのことが、ほかの何にもまして欲しいものになり、この私になくってはならないものになる時に、平凡な肉の人間が天に富を持つ人になります。その人は単一指向性の「**単純・一途**」な澄んだ目を神に注ぐ人になれる。

思い悩みから解放された自由人になれる。富の奴隷ではなく、富の主人になって支配できる。富を自由に支配して使える人間になります。神と人のため、聖なる用途にそれを使えるような「**富の支配者**」になるのです。

⇒「**衣魚も虫も食わない、また泥坊が忍び込むことも盗むこともない天に、宝を積んでおきなさい。(そうでないと、心が天に向かないであろう。)**」(20)、「**宝のある所に、あなたの心もある**」(21)は、「**天に積む富・宝**」、「**何よりも、御国と、神に義とされることとを求めよ**」に集約されます。

## 結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓あるいは説教と表現される箇所です。
- ◇本日は、**マタイ6章19～34節**も、**マタイ5章**の続きで、**神の御子イエス・キリスト様**を祝福のことば全体の中で理解したいとの思いで、「**主の祈り**」(9～13)＜「**断食**」(16～18)は後日扱います＞見たが、「**天に自分の宝をつみなさい**」で、「**隠れた所での父なる神の目**」(6:20)に「**焦点**」合わせています。
- ⇒「**神の幸い・祝福**」、「**迫害の中の神信仰**」に続く「**天の父の心の目**」に「**神の御子イエス・キリスト様**」は、注目しておられるのです。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「**祈り**」(5～6)、「**隠れた所での祈り・主の祈り・弟子の祈り**」同様、「**天の父の心の目**」が大事なことばになっています。

⇒「**宝のあるところに心もある**」(21)からです。

⇒**OA師**は、まとめて、次のように語っておられます。

⇒キリストはそれを可能にするためにだけ来られて、そのために死なれて、そのために復活してください。そのことが、ほかの何にもまして欲しいものになり、この私になくってはならないものになる時に、平凡な肉の人間が天に富を持つ人になります。その人は単一指向性の「**単純・一途**」な澄んだ目を神に注ぐ人になれる。思い悩みから解放された自由人になれる。富の奴隷ではなく、富の主人になって支配できる。富を自由に支配して使える人間になります。神と人のため、聖なる用途にそれを使えるような「**富の支配者**」になるのです。

⇒「**衣魚も虫も食わない、また泥坊が忍び込むことも盗むこともない天に、宝を積んでおきなさい。(そうでないと、心が天に向かないであろう。)**」(20)、「**宝のある所に、あなたの心もある**」(21)は、「**天に積む富・宝**」、「**何よりも、御国と、神に義とされることとを求めよ**」に集約されます。